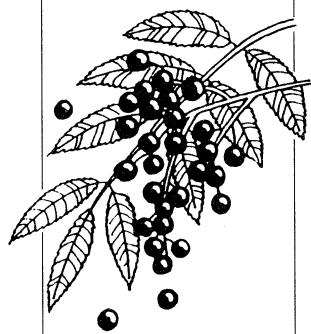


市史の広場

水交庵

鷹野四郎



ありません。

昔の人々は川や湖など水のそばにしか生活は出来ませんでした。しかし、順次人々の智慧で井戸を掘り、遠くから水を引いて生活するようになり、更に進んで、今日のように近代水道を使って健康で明るい文化生活を営むようになりました。

甲府の町がはじまったのは、永正年間、武田信玄の父信虎が石和から「つつじが崎」（現在の武田神社）に館をつくり、移ってきた頃といわれています。今でも館跡に当

時使つたと思われる三つの古井戸が残つています。

その後、武田氏にかわって領主となつた浅野長政が文禄年間、甲府城を築くと同時に、川から水を引き入れ甲府用水をつくりして開館したものであります。

水交庵に入りますと、本市上水道の歴史を知ることが出来るとともに、創設や拡張

の陣頭指揮に当たつた歴代市長をはじめ、遠く江戸時代から今日まで甲府の水道に係わつた多くの先人たちのみなみならぬ苦心と努力が窺えます。

水交庵は、創設七十五周年と、この拡張工事完成を期に歴史的諸資料を保存し、甲

清流と渓谷美を誇る昇仙峡の入口に平瀬淨水場があります。

この浄水場から甲府市の水道は、大正二年一月給水を開始しました。

以来市勢の発展、産業の発達に伴い、昭和八年第一期拡張工事に着工してから半世紀にわたり拡張工事を続け、昭和六十三年三月第五期拡張工事の完成をもつて今日に至り、昭和町、敷島町、玉穂町にも給水しています。

水交庵は、創設七十五周年と、この拡張工事完成を期に歴史的諸資料を保存し、甲

水が空気や太陽の光と同じように、すべての生物に不可欠であることはいうまでも

恵まれなかつたためであります。

この原因は、甲府の町が良質の地下水に

しかし、現在の伊勢一丁目あたりには

「御膳水」といわれた水質の良い井戸水も

あり、この水を売りあるく水売り屋さんが

二十一軒もありましたが、この水を買うこ

とができるのはごく一部であり、多くは非

衛生的な井戸水を使用せざるを得なかつた

わけであります。明治二十二年七月一日

甲府市制が施行され、市民の第一の望みは

衛生的な上水道をつくることになりました。

しかし、上水道の水源として荒川から取

水することは、下流の農民との問題もあり、

また日清、日露の戦争が勃発したことであつ

て、なお二十年も待たなければなりませんでした。

明治四十二年山梨県が仲介となり、農民

との同意を得て全国で十七番目の上水道と

して、国の認可を受けて工事を着工し、大

正二年一月から二十六番目の上水道として

給水を開始しました。

きれいな水がつくることなくぼとぼしる

上水道の完成は、市民にたいへん喜ばれました。

水道が住民の文化的な生活や都市・産業

活動の基盤施設としての地位を確立し、そ

の社会的重要性を認められる中で、本市水

道はその後五期にわたる拡張工事を進めてまいりました。

第一期拡張工事は昭和八年、荒川からの増量取水と農民の農業用水確保を目的に「溜池」を二つ造りましたがその一つが丸山の貯水池、現在の千代田湖であります。

年々水需要の増大に伴い拡張工事をかさね

昭和六十三年三月第五期拡張工事を終了しました。

この工事には山梨県と共同で完成させた

荒川ダムの建設が含まれています。

荒川ダムは多目的ダムとして主に三つの目的をもつて建設されました。一つには洪

水調節、二つには正常な流水機能の維持、

沿岸既得用水の補給、三つには上水道用水

の確保であります。

このダムの完成と第二期拡張工事で完成

した昭和水源（地下水）により、武田氏の

時代から延々と水不足に悩み続けてきた甲

府市も当分の間、水の心配がなくなりまし

た。

今日の社会経済情勢の大きな変化に伴い、

当面する課題に適切に対処し、水道本来の

使命である清浄にして豊富低廉、さらに安

全でおいしい水を一時たりとも休むことな

く供給することができるのも、恵まれた自

然環境と先人たちの情熱と努力、そして住

民のみなさまのご協力によるものであり、

この場を借りて深く感謝する次第です。

（水道事業管理者・前市史編さん委員）

酒折宮の連歌と片歌

古屋高治

新治 筑波を過ぎて 幾夜か寝つる

かがなべて 夜には九夜 日には十日を

『古事記』が、日本武尊と御火焼の老人

が甲斐の酒折宮で唱和したと伝えられるこ

の片歌問答は、後世、連歌の起源と考えら
れるようになつた。そのため、甲斐の国学
者・文人・歌人たちの間では、明和・安永・
天明のころ連歌が盛んとなり、他国に向かつ